

「体育科」（うんどう）学習指導案

1. 日時 令和〇年〇月
2. 場所 体育館
3. 学部・学年・組 小学部 第3. 4 学年 8 名
4. 単元（題材）名 「走跳の運動遊びをしよう」「ボール遊び‘キャッチボール’をしよう」
5. 単元（題材）目標

「走・跳の運動遊びをしよう」

- ・それぞれの方法でゴールすることができている（知・技）
- ・活動で感じたことを表出したり伝えたりすることができる（思・判・表）
- ・自ら活動に取り組んだり、ゴールまで頑張ろうとしたりする（学・人）

「ボール遊び‘キャッチボール’をしよう」

- ・相手とボールをやりとりすることができている（知・技）
- ・活動で感じたことを表出したり伝えたりすることができる（思・判・表）
- ・相手や活動に興味を持ちキャッチボールに取り組むことができる（学・人）

6. 児童観 略

7. 教材観

「走・跳の運動遊びをしよう」

昨年度は、全員が同じコースを、それぞれの移動手段で回るサーキット活動に取り組んだ。コースの中で、日常ではなかなか経験することのないスピードや不安定な床面を経験し、感じるということを目指したが、速く進んだり不安定な地面上を進んだりするためには、児童自身の動きに対する教員の支援の量が多く必要となり、受動的な学習の要素が多くなったため、今年度は、自分で身体を動かすことに重点を置き、個々の実態に応じてコースを分け、学習する設定とした。

階段、坂道、ハードルのコースについては、①バランスが崩れそうになった時に姿勢を戻そうとする②コースの状態や障がい物に合わせて身体の動かし方を計画したり対応したりする、ということをねらいとして設定した。

歩行器、マット上の活動のコースについては、①身体を自分で動かす②目標に向かって進む、ということのをねらいにして設定した。

台車で動くコースについては、①覚醒を高める②姿勢を一定時間保持する、ということのをねらいとして設定した。

各児童がそれぞれの取り組みを行うが、個別の活動になりすぎないように、グループを作って場を共有し、同じ場所にあるゴールに向かうようにする。また、ゴールしたことが分かりやすく、達成感を持てるように、ゴールに目標物をつけて取るようにした。活動の「始まり」と「終わり」を感じることができる手掛かりに音楽も使用する。

「ボール遊び‘キャッチボール’をしよう」

相手を意識できる距離や、活動や物へ注意を持続することができる時間の実態が同じくらいの児童がペアを組み、学習を積み重ねていく。使用するボールは、操作しやすい大きさや重さ、視覚的に捉えやすい色、音が鳴るなどの手掛かりがあるという視点からいくつかのボールを準備し、初回の授業で実際に触れ、各ペアで選択した。転がす面については、少しの力で相手に確実にわたるようにガードや傾斜をつけたり、ボールとの対比が付きやすいように黒くしたりする。姿勢については、座位保持装置での座位姿勢、床上での座位姿勢、腹臥位姿勢など、上肢の操作、ボールや相手の見やすさなどの視点で、個に応じた設定で行う。また、相手や活動に注意を向ける機会を作るため、ボールを転がす前に相手の名前を呼ぶ時間を設ける。

8. 指導観

「走・跳の運動遊びをしよう」

ゴールに向かって進むという活動の中で、個別の教育支援計画の目標と関連させた個別の課題を設定し、取り組めるようにする。寝返りで顔や上肢を自分で動かして回転するために下肢を教員が支えたり、介助歩行で足を自分で動かして障がい物を越えたりするために体幹を教員が支えたりするなど、個に応じた支援を行い、その運動を最後までやり遂げることで運動の方法を理解したり、達成感を感じられたりするようにする。また、自ら考えて取り組もうとしたり、身体を動かそうとしたりすることを支援の量やタイミングを計りながら見守り、より自分で身体を動かすことを意識できるようにする。できていることやうまくいっていないところについて、取組みの中で、言葉をかけるまたは動きを支援することで伝え、目標としている運動を経験できるようにする。

「ボール遊び‘キャッチボール’をしよう」

名前を呼ぶ際、言葉かけや指差しなどで相手を意識できるように促す。視覚的に認識することが難しい場合は、相手に触れて確認ができるようにする。注意が相手や活動に向いていないときは、気持ちを向けるように促すとともに向けられるまで待ってから取組みを開始するようにする。また、転がした後は、注意の持続が難しい場合はボールが手元に渡る（来る）まで言葉かけを継続し、注目することを促す。「ボールが一方からもう一方に渡る」という活動がひとまとまりであるということを意識できるように、活動や言葉かけにメリハリをつけるようにする。

各児童がどのようにボールを転がすのか、それを遂行するにはどのように支援するのがよいのかを把握し、適切に支援を行えるようにする。また、ボールを転がせていることややりとりができていることが、楽しい、うれしい、と感じられるような雰囲気づくりを行う。

どちらの活動でも、目標を明確にして意識ができるように、各児童に「〇〇をするようにしましょう」と活動のポイントを伝えるようにする。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
（走・跳） ① 身体の動かし方や活動の取り組み方を経験する/知る。 ② 身体に力を入れたり、身体を動かしたりすることができている。 （ボール） ① ボールに触れたり、ボールを動かしたりすることができている。 ② ボールと相手に注意を向けることができている。 ③ 相手とボールをやりとりすることができている。	① 活動して感じたことを表出したり伝えたりする。 ② 振り返り時に、活動で感じたことを表出したり伝えようとしていたりしている。 ③ 活動にあった身体の動かし方をしようとしている。	① 教員と身体と一緒に動かすことやボールに触れることなどの活動を、受け入れようとしている。 ② 言葉かけなどの教員の促しを受け、活動に取り組もうとしている。 ③ 自ら身体を動かそうとしたり、取り組みを継続しようとしていたりしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全5時間、本時は第5時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	・本時の流れの確認 ・準備体操 ・走・跳の運動遊びをしよう ・ボール遊びをしよう ・振り返り	・本時の流れの話を見聞きする。 ・「ひらのたいそう」を教員と一緒にやる。 ・それぞれの方法でゴールに向かう。 ・ボールに触れる、ボールを転がす。 ・活動で感じたこととボールの転がし方を教員と一緒に発表する。	・あとの活動が行いやすいように身体を十分に動かす。 ・目標となる運動を引き出すために、個に応じた支援を行う。 ・意欲的に取り組めるような言葉かけを行う。	（走・跳）・A－② （ボール）・A－① ・B－① ・C－①
	2	・本時の流れの確認 ・準備体操 ・走・跳の運動遊びをしよう ・ボール遊びをしよう ・振り返り	・本時の流れの話を見聞きする。 ・「ひらのたいそう」を教員と一緒にやる。 ・それぞれの方法でゴールに向かう。 ・ボールに触れる、ボール	・あとの活動が行いやすいように身体を十分に動かす。 ・目標となる運動を引き出すために、個に応じた支援を行う。 ・意欲的に取り組めるよ	（走・跳）・B－③ （ボール）・A－② ・B－① ・C－②

			を転がす、相手とボールのやりとりをする。 (手渡せる距離から) ・活動で感じたことを教員と一緒に発表する。	うな言葉かけを行う。 ・相手を意識できるように必要であれば言葉かけや誘導などを行う。	
3	・本時の流れの確認 ・準備体操 ・走・跳の運動遊びをしよう ・ボール遊びをしよう ・振り返り	・本時の流れの話を見聞きする。 ・「ひらのたいそう」を教員と一緒にやる。 ・それぞれの方法でゴールに向かう。 ・ボールに触れる、ボールを転がす、相手とボールのやりとりをする。 (様子を見て距離を伸ばしていく) ・活動で感じたことを教員と一緒に発表する。	・あとの活動が行いやすいように身体を十分に動かす。 ・目標となる運動を引き出すために、個に応じた支援を行う。 ・意欲的に取り組めるような言葉かけを行う。 ・相手を意識できるように必要であれば言葉かけや誘導などを行う。 ・ボールや相手に注意を向け続けることができるように支援する。	(走・跳)・B-③ (ボール)・A-①② ・B-② ・C-②	
4	・本時の流れの確認 ・準備体操 ・走・跳の運動遊びをしよう ・ボール遊びをしよう ・振り返り	・本時の流れの話を見聞きする。 ・「ひらのたいそう」を教員と一緒にやる。 ・それぞれの方法でゴールに向かう。 ・ボールに触れる、ボールを転がす、相手とボールのやりとりをする。 (様子を見て距離を伸ばしていく) ・活動で感じたこととペアでのキャッチボールを教員と一緒に発表する。	・あとの活動が行いやすいように運動を十分に動かす。 ・目標となる活動を引き出すために、個に応じた支援を行う。 ・意欲的に取り組めるような言葉かけを行う。 ・相手を意識できるように必要であれば言葉かけや誘導などを行う。 ・ボールや相手に注意を向け続けることができるように支援する。	(走・跳)・B-③ (ボール)・A-③ ・B-② ・C-③	

5	・本時の流れの確認 ・準備体操 ・走・跳の運動遊びをしよう ・ボール遊びをしよう ・振り返り	・本時の流れの話を見聞きする。 ・「ひらのたいそう」を教員と一緒にやる。 ・それぞれの方法でゴールに向かう。 ・ボールに触れる、ボールを転がす、相手とボールのやりとりをする。 (様子を見て距離を伸ばしていく) ・活動で感じたこととペアでのキャッチボールを教員と一緒に発表する。	・あとの活動が行いやすいように身体を十分に動かす。 ・目標となる運動を引き出すために、個に応じた支援を行う。 ・意欲的に取り組めるような言葉かけを行う。 ・ボールや相手に注意を向け続けることができるように支援する。	(走・跳)・B-③ (ボール)・A-③ ・B-② ・C-③
---	--	--	--	--

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

「走・跳の運動遊びをしよう」

- ・それぞれの方法でゴールすることができる。(知・技)
- ・自ら活動に取り組んだり、ゴールまで頑張ろうとしたりする。(学・人)

「ボール遊び『キャッチボール』をしよう」

- ・相手とボールのやりとりをすることができる。(知・技)
- ・相手や活動に興味を持ちキャッチボールに取り組むことができる。(学・人)

<共通>

- ・活動で感じたことを表出したり伝えたりする。(思・判・表)

(2) 本時の評価規準

- ・活動にあった身体の動かし方をしている。
- ・相手とボールをやりとりすることができる。
- ・振り返りの場で、活動して感じたことを表出したり伝えようとしていたりしている。
- ・自ら身体を動かそうとしていたり、取組みを継続しようとしていたりしている。

(3) 本時で扱う教材・教具

マット、箱椅子台車、歩行器、階段、スロープ、ハードル、絵カード、台紙、モニター、タブレット端末、傾斜台、ボール、机、箱椅子

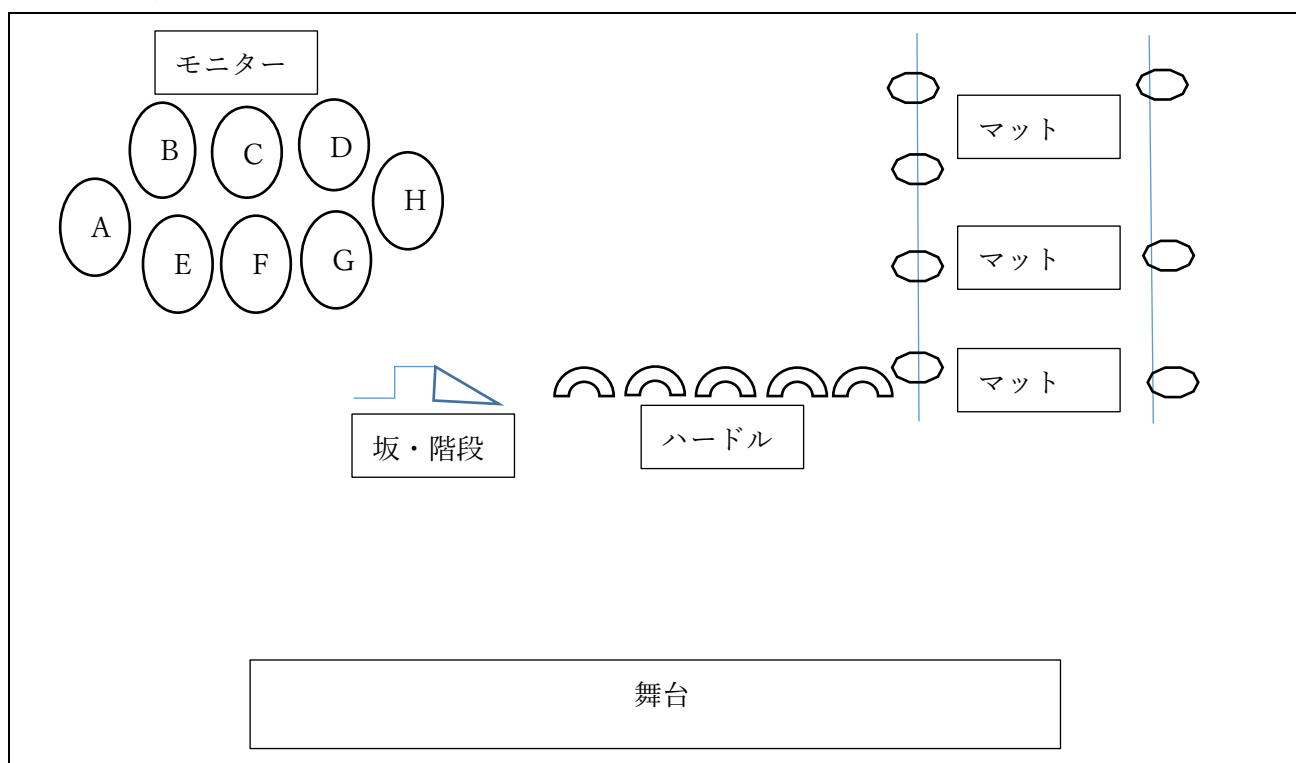
(4) 児童の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準(評価方法)
5分 導 入	○始まりのあいさつをする。 ○本時の学習の流れを知る。 ○準備体操をする。	・始まりを意識できるように、前の指導者に注意を向ける言葉かけを行う。 ・見て確認もできるように、文字やイラストでも流れを提示する。 ・端的にゆっくり、身振りも踏まえて話すようにする。	・表情や視線で前に注目できているかを確認する。 (行動観察)
30分 展 開	○走・跳の運動遊びをしよう ・スタートからゴールまで各自の方法で取り組む。 ・ゴールで絵カードを取る。 ・絵カードを台紙に貼る。 ○ボールあそび〈キャッチボール〉 ・ボールの取り扱い練習をする。 ・ペアに分かれてキャッチボールを行う。(名前を読んでから転がす)	・それぞれの力を出すために必要な、適した支援を行う。 ・頑張っていることやうまくいっていることなどを伝えながら、ゴールに向かう気持ちを作るようにする。 ・ゴールができた達成感を感じられるように言葉かけを行う。 ・ボールの転がし方や転がしやすい場所などを調整できるように本時の児童の様子を観察する。 ・相手を意識できるようにそれぞれの方法で促す。 ・相手やボールを意識し続けられるように言葉かけなどを行う。	・身体を動かしたり、目標とする運動ができたしているか、活動の様子を観察する。 (行動観察) B③ ・意欲的にまたは最後まで頑張ろうとしているか、態度や表情で確認する。 (行動観察) C③ ・相手を意識できているか、ボールを転がすことができているかを観察する。 (行動観察) A③
10分 ま と め	○振り返り ・前に出て活動で感じたことを発表する。 ○おわりのあいさつをする。	・それぞれの表出に合わせて、活動で見られた様子などを教員が言葉にして代弁するようにする。 ・おわりを意識できるように、前の指導者に注意を向ける言葉かけを行う。	・それぞれの方法で表出しようとしているか表情や声などに注目する。 (行動観察) B② ・表情や視線で前に注目できているかを確認する。 (行動観察)

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

<走・跳>



<ボール>

